

東日本大震災時の婦人防火クラブの活動に関する調査報告

■調査概要

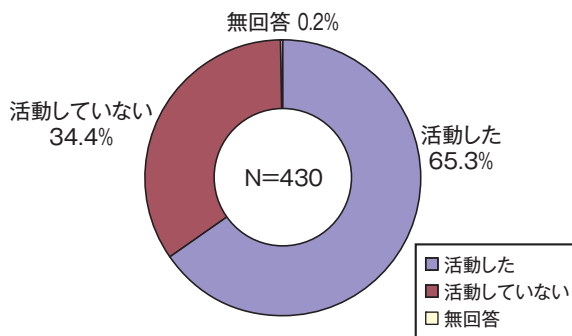
調査対象：仙台市内の全婦人防火クラブ536クラブ
 調査期間：平成23年7月中旬調査票配付、8月25日回収（若林及び宮城地区支部を除く）
 ※若林地区支部：5月13日～5月25日の期間に聞き取りで実施
 ※宮城地区支部：5月27日に調査票で実施
 回収票数：430クラブ（回収率：80.2%）、有効回答率：100%
 ※若林及び宮城地区支部の調査については、設問1及び2のみとした。

■集計結果

1. 今回の震災において、町内会と連携した活動を行いましたか

- ①活動した
- ②活動していない

区分	①	②	無記入
回答数	281	148	1
割合(%)	65.3	34.4	0.2



2. 町内会と連携した活動の内容について（複数回答可）

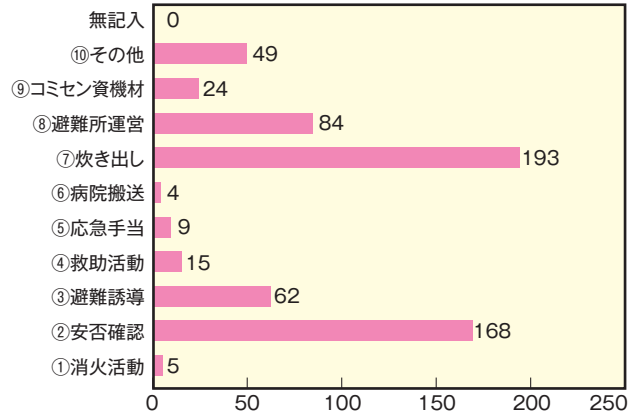
- ①消火活動
- ②安否確認
- ③避難誘導
- ④救助活動
- ⑤応急手当
- ⑥病院への搬送
- ⑦炊き出し
- ⑧避難所運営
- ⑨コミセン資機材を活用した活動
- ⑩その他①から⑨以外

主な記載項目

- ・避難所で避難者の悩み相談を行った。
- ・各家庭の被害調査を行った。
- ・災害弱者の支援を行った。
- ・給水と運搬を行った。
- ・各家庭を訪問し、通電火災予防の呼びかけを行った。
- ・防犯・防火等のため夜回りを行った。

区分	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	無記入
回答数	5	168	62	15	9	4	193	84	24	49	0
割合(%)	1.8	59.8	22.1	5.3	3.2	1.4	68.7	29.9	8.5	17.4	0.0

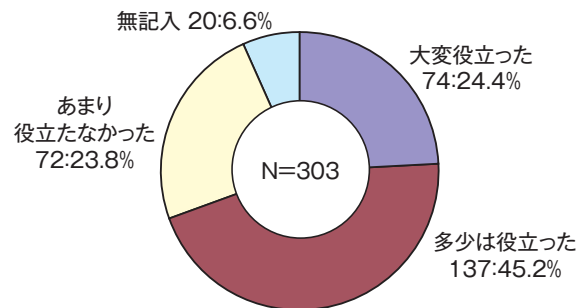
※割合(%) = (回答数/問1の①(活動した)回答票数(281)) × 100



3. これまで行ってきた町内会と連携した防災訓練の効果について

- ①大変役に立った
- ②多少は役に立った
- ③あまり役に立たなかった
- ④無記入

区分	①	②	③	無記入
回答数	74	137	72	20
割合(%)	24.4	45.2	23.8	6.6



4. 3で③(あまり役に立たなかった)と回答した婦人防火クラブに伺いますその理由は(自由記述)

- ・想定以上の災害であった。
- ・避難所運営の訓練をしていなかった。
- ・主に火災を想定した訓練中心だった。
- ・今回の震災は今まで行ってきた消火、救助、通報等の活動を必要としなかった。
- ・今回の震災はけが人や火災が発生せず、今まで行ってきた訓練を必要としなかった。
- ・ほかの地域の避難者を受け入れる想定をした訓練をしていなかった。
- ・長期に及ぶことを想定した、震災時の対応訓練ではなかった。
- ・訓練どおりに町内会と連携できなかった。
- ・電話が使えずクラブ員に情報伝達が出来ず活動が出来なかった。
- ・安否確認の役割担当者が不在のため、確認作業が訓練どおりいかなかった。
- ・訓練は毎年同じことのくり返し、もっと有意義なことを学ばせてほしい。
- ・余震が続くなか、身を守るのに精一杯だった。
- ・家庭のこつをするのが精一杯だった。
- ・自宅の被害が大きかったため、自分と家族の安全確保、安否確認に追われた。